Tazaki 財団の皆様

7 月の 3 週間にわたり UCL のサマースクールに参加しておりました、東京大学工学部社会基盤学科 4 年で GLP-GEfIL6 期生の西尾玲奈と申します。この度は奨学金のご支援をいただきまして、誠に感謝しております。コロナ禍で果たして本当に渡航できるのか、また予定通り帰れるのか先行きが見えず不安な中での留学でしたが、大変充実した留学生活を送り、無事帰国いたしました。Global London – Contemporary Urbanism, Culture and Space というコースをとっていたこともあり、英国ロンドンに実際に行かなければ得ることのできなかった学びを沢山得ることができました。

サマースクールのコースは、週ごとにテーマがあり、講義やディスカッション等教室で行われるものと、実際にロンドンの街を歩くフィールドワークが組み合わさった授業形態でした。都市というものについて、グローバルシティ、文化の多様性、ジェントリフィケーションなどの多様な視点から分野横断的に学ぶだけでなく、理論的に学んだことをもとに実際に五感を使ってロンドンを回ることで、さらに理解を深めることができました。また、クラスメートはアメリカ、カナダ、中国、香港、シンガポール、カタールなど様々な場所から来ており、出身の都市についてディスカッションで共有する機会が多かったため、ロンドン以外の都市やその都市への考え方を学ぶこともできる、大変刺激的な授業でした。

現在、専攻の社会基盤学科ではインフラをベースに都市について勉強し、留学に行くきっかけとなった学内プログラムである GLP-GEfIL では、東京を題材にグローバルシティについて学んできました。今回の留学では、ロンドンという代表的な都市に実際に足を運び、多様なバックグラウンドを持つ人々が集まるロンドンで学ぶことで、これまで大学で学んできたことを実践的に理解するとともに、新しい観点も得ることができ、相乗効果を生むことができたと思います。また、私は中学の 2 年間ロンドンに住んでいたことがあるのですが、マイノリティである一日本人市民としての経験を学びに活かすことができたと同時に、当時は未熟で見えていなかった側面を今回多く発見することができ、成長した今再びロンドンを訪れる機会をいただけた価値を大きく感じました。

今回のロンドン留学は、中学での経験、大学の専攻での勉強、GLP-GEfIL での学び等、私がこれまでしてきたこと、考えてきたことを全て繋げてくれるような大変貴重な機会となりました。同時に、多様な価値観や都市の側面を学んだことで、これから自分が都市の中でどのような役割を持つ人になりたいのか、深く考える機会ともなりました。この機会を無駄にしないよう、これからも一層勉学に勤しみます。最後になりましたが、今回ご支援をくださった全ての方々に重ねて御礼申し上げます。

(左) UCL のキャンパス 24 時間開放している勉強スペースがあり、驚きました。/ (右)クラスメートとの集合写真(@Canary Wharf)右から 7 番目が私です。